Management Club Report

Feb.2011/Vol.98

Monthly Opinion　≪もし健康保険がなかったら≫

今でも使っていますが、10 余年前の経営セミナーで「もし健康保険制度がなかったら……」という問い掛けから、歯科医院経営のあるべき姿について論じたことがあります。

言わんとした趣旨は、健康保険制度のお陰で歯科医院は、それほどの苦労や努力をしなくても大いに潤うことができた一方で、それがあるがために、普通の事業会社であれば当然に備わっているような『自由競争に勝ち残ろうとする全員の気力や知恵の出し合い』、あるいは『組織内競争に負けまいとする全員の切磋琢磨』が、歯科医院には醸成されてこなかったことも事実で、いわば、組織力や経営力といった面の強化とは反対方向に健康保険制度は貢献してしまったのではないかということでした。

近年、健康保険に制度疲労が出始め、将来展望に陰りが見えるようになってくると、歯科界には急にあたふた感が出始め、高額治療を中心にした自費率アップのためのセミナーやインプラント研修会が花盛りとなってきましたが、「もし健康保険制度がなかったら……」に対するあるべき回答は、そのような「自費診療に向かう」という短絡ではありません。もっと歯科医師にとって大切な考え方の基本、つまり歯科医療の本当のあり方や、歯科医院経営のあり方、組織運営の仕方などについて再構築された中身そのものであると思っています。

1　もし、健康保険制度がなかったら

フリーアクセスがもたらした功罪

ものごとには必ず表と裏の二面性があります。意図したものではなかったとしても結果として功罪相半ばする二面性が存在するものです。

我が国の健康保険制度の優れた点に『フリーアクセス』があります。誰もが、いつでも、どこででも医療が受けられるというものです。旅先や出張先で病気になったり怪我をしたり、いきなり歯が痛くなったりした場合、近くにある医院に飛び込めば診てもらえるという、利用者にとっては大変便利でよくできたシステムです。

しかし一方でこの便利さが、医療費を膨張させる一因となってきたことも事実です。勿論、医学の発達による新技術や新薬の開発が不断に進められ、高度医療が広く行き渡るようになったことが主たる要因ではあるのでしょうが、中にはちょっとしたことでも直ぐに医院へ駈け込む用心深い人や、自らの健康管理の至らなさを医院に頼る怠け者や、『サロン』代わりに医院に集う高齢者などの存在を無視することはできないでしょう。当初『フリーアクセス』が目指し